

熊本ならではの 新しい文化創造をめざして

今、人々は、「物の豊かさ」から「心の豊かさ」を、生活の中に求め始めています。ただ文化に触れるだけではなく、自ら文化活動に参加し、楽しむとする文化志向もその表れです。今回は、県民の文化創造を支援する取組みを紹介します。



平成5年 第6回県民文化祭 オープニングフェスティバルより

県民一人ひとりが 文化の担い手

文化創造の時代へ

本県には神楽、獅子舞、能など数多くの伝統芸能や伝統文化が残されており、近年、これらの掘り起こしによって、郷土の歴史や文化財などに対する県民の関心が高まっています。

一方、経済的な豊かさや自由時間の増大に伴い、人々の価値観も多様化し、日々の生活の中でも、より「心の豊かさ」が求められ、生活環境や文化への

関心も高まってきました。さまざまな知識や文化に触れるばかりでなく、自ら文化活動に参加し生きがいを見い出だしていこうとする時代。まさに、県民一人ひとりの文化創造の時代になってきたのです。

幅広い文化振興施策

県民のこのような文化志向に伴い、行政にもまた、文化的視点に立った幅広い施策が求められるようになりました。

美術館や図書館など文化施設を整備するだけでなく、県民がそこでさまざまな活動をするには、どのような支援

策をとらなければならないのか、課題となってきました。また、道路や橋、公共施設についても、機能性や合理性の追求のみならず、緑化したりモニメントを置いたり…。くまもとアートポリス構想「推進事業も「文化の香り高い地域づくり」という文化振興施策の一つなのです。

「文化」の担い手は県民一人ひとり。県は、文化的な視点に立った施策を推進するとともに、県民の自発的な文化活動を側面から応援しています。

文化創造のための環境づくり
県民の文化創造を支援
二十一億円を公益信託として銀行に委託し、その益金で文化団体や個人の文化振興、国際交流、地域間交流活動を助成する「くまもと21ファンド」。毎年十月、県内各地域の持ち回りで開かれている「県民文化祭」は、まさに



に県下最大のアマチュア文化の祭典です。県民のさまざまな文化活動が全県規模で発表される場を設けるとともに、優れた文化に接する機会を提供することで、県民の文化活動への参加と地域文化の相互交流を促進します。

将来、文化を担う青少年たちの音楽を通じた育成の場である「熊本国際青少年音楽フェスティバル」では、海外数カ国から音楽を愛する青少年たちが集まり、音楽交流を深めるとともに、期間中の県内各地でのホームステイなどを通じた国際交流も展開しています。

また、都市部に比べて、コンサートなどに触れる機会の少ない地域の人達を対象に、鑑賞と参加の機会を提供しようというのが、「地域文化ふれあい事業」と「文化施設ネットワーク事業」です。

前者は、県が芸術家を派遣したり、地元文化団体との共演などを企画します。後者は、県立劇場がプロモートした文化事業を市町村の文化施設に幹



草地畜産研究所畜舎(アートポリスプロジェクトから)



「地域文化ふれあい事業」の1コマ